

【埼玉】

学生目線の大学ガイド 川越・尚美学園大生が作成

2015年3月8日

川越市の尚美学園大学芸術情報学部三年生が、学生を主役にした大学ガイドブック「true colors 尚美生が君に伝えたいこと」(A5判、六十八ページ)を三千部作成。大学内や川越駅、市内の商業施設などに配布した。在校生の飾らない生の声が伝わる内容を大学側も評価。新入生のオリエンテーションで配ることを決め、増刷することになった。

作成したのは同学部音楽ビジネスコース・出版ゼミ(緒方庶史(ちかし)教授)の十二人。同学部は二年前、ふじみ野市の旧上福岡キャンパスから川越キャンパスに移転した。昨年春から始まったゼミで「他学部の学生のことをよく知らないよね」という話が出て、大学の公式パンフレットとは違う学生目線のガイドブックを雑誌形式で作ることになった。



本格的なガイドブックを作った尚美学園大・出版ゼミの学生たち＝川越市で

音楽出版社出身の緒方教授の指導を受けながら昨年五月から企画会議を重ね、夏休み明けから取材を始めた。

メインの特集はキャンパス内外で活躍する在校生ら八人を紹介するインタビュー記事。女子硬式野球部主将で昨年女子野球ワールドカップの日本四連覇に貢献した出口彩香選手(四年)をはじめ、自分で結成した合唱サークルを設立半年で国際コンクール入賞に導いた学生、ソロで活躍する現役アイドル、世界大会出場のチアダンス部主将らを紹介。学生同士の気安さから普段着の話を引き出した。

このほかにも学生アンケートや四年生座談会など盛りだくさんの内容。アイドルインタビューを担当した李彩花(リ チェファ)さん(22)は「アイドルの世界観を大事にする事務所のチェックなど難しい部分もあった。何回も誤字脱字をチェックする校正作業が大変だった」と話す。終盤にはスマートフォンアプリでの編集会議が深夜まで続くことも。ゼミ長の楠根早姫子(くすねさきこ)さん(21)は「協力者を探したり、日程調整をしたりと大変だったが、見た人からとてもよいですねと言ってもらえるものができた」と満足そうに話した。(中里宏)

学生目線の大学ガイド

川越・尚美学園大生が作成



本格的なガイドブックを作った尚美学園大・出版ゼミの学生たち（川越市で）

雑誌スタイル、生の声伝わると好評

川越市の尚美学園大学芸術情報学部三年生が、学生を主役にした大学ガイドブック「true colors」尚美生が君に伝えたいこと（A5判、六十八頁）を三部作成。大学内や川越駅、市内の商業施設などに配布した。在校生の飾らない生の声が伝わる内容を大学側も評価。新入生のオリエンテーションで配ることを決め、増刷することになった。

作成したのは同学部音楽ビジネスコース・出版ゼミ（緒方庶史教授）の十二人。同学部は二年前、ふじみ野市の旧上福岡キャンパスから川越キャンパスに移転した。昨年春から始まったゼミで「他学部の学生のことをよく知らないよね」という話が出て、大学の公

新入生向け増刷決定

式パンフレットとは違う学生目線のガイドブックを雑誌形式で作ることになった。

音楽出版社出身の緒方教授の指導を受けながら昨年五月から企画会議を重ね、夏休み明けから取材を始めた。

メインの特集はキャンパス内外で活躍する在校生ら八人を紹介するインタビュー記事。女子硬式野球部主将で昨年の女子野球ワールドカップの日本四連覇に貢献した出口彩香選手（四年）をはじめ、自分で結成した合唱サークルを設立半年で国際コンクール入賞に導いた学生、ソロで活躍する現役アイドル、世界大会出場のチアダンス部主将らを紹介。学生同士の気安さから普段着の話を引き出した。

このほかにも学生アンケートや四年生座談会など盛り

りだくさんの内容。アイドルインタビューを担当した李彩花さん（三）は「アイドルの世界観を大事にする事務所のチェックなど難しい部分もあった。何回も誤字脱字をチェックする校正作業が大変だった」と話す。

終盤にはスマートフォンアプリでの編集会議が深夜まで続くことも。ゼミ長の楠根早姫子さん（三）は「協力者を探したり、日程調整をしたりと大変だったが、見た人からとてもよいできですね」と言ってもらえるものができた」と満足そうに話した。

（中里宏）